

武蔵大生が企画運営、大学の魅力を発信する Web マガジン Musashi Web Magazine「きじキジ」 コロナ禍だからこそ！－在学生が生きた情報提供－

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）は、2013年より高校生や在学生を対象とした Musashi Web Magazine「きじキジ」を公開しています。このサイトは、武蔵大生によって構成された編集部が企画・編集をし、大学生活やキャンパスのある江古田にまつわるさまざまな情報を、形式にとらわれない自由なスタイルで発信。長く続くコロナ禍であっても、学生ならではの視点や、ユニークな発想と行動力でコンテンツが作られているのが特長です。

Musashi Web Magazine「きじキジ」とは

Musashi Web Magazine「きじキジ」の編集部員は現在、1～3年生 21名の構成。大学広報活動の一環という側面もあり、スキルアップのため教職員が定期的にワークショップを開催するなど活動をバックアップしています。「きじ」（雉）は、武蔵大学のロゴのモチーフで、本学のルーツである旧制武蔵高等学校時代からのシンボル。「きじキジ」のネーミングは、学生が提案した「雉」と「記事」をかけて採用されて生まれました。

■ Musashi Web Magazine「きじキジ」Pick up !

Web マガジンのコンテンツは、「特集」「イベント」「勉強」「ライフ」「進路」「恋愛」「グルメ」「ブログ」「その他」の9つのカテゴリに分類されています。

▼ [武蔵大学大学院『大学院に行ってみた！』](#)

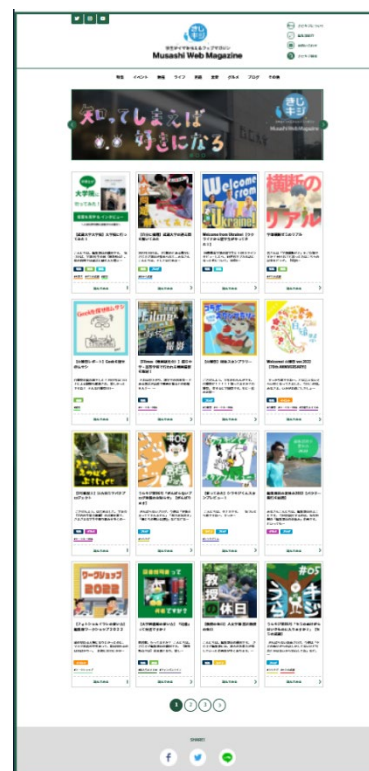
同じキャンパスにありながら、大学院の実態を知っている大学生は少ない。きじキジメンバーが担当教授と院生への取材を行い、大学生目線で大学院を紹介しています。

▼ [Welcome from Ukraine!【ウクライナから留学生がやってきた！】](#)

戦禍のウクライナから、学びの場を求めて武蔵大学に留学生がやってきました。留学生には武蔵大学はどのように見えているのか、取材を通してウクライナの学生たちの素顔が浮き出てきます。

▼ [Welcome! 白雉祭 ver.2022【70th ANNIVERSARY!】](#)

白雉祭(大学祭)成功に向けて奮闘する実行委員を取材。事前のピラ配りやポスター掲出など、今年が70回目の開催&武蔵学園100周年目の節目に新型コロナに負けない企画と事前準備で集客増を目指す姿が見えてきます。



—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報部

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp



2022年4月17日、武蔵学園は創立100周年を迎えました

■ **武蔵大学** 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学との平行・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1